

平成 25 年 3 月 2 日

男子体操競技情報 20 号

(財)日本体操協会
リオデジャネイロ強化委員会男子体操競技強化本部
男子体操競技委員会
審判委員会男子体操競技審判部

【目次】

1. 平成 24 年度一種審判員研修会、第 13 期国際審判講習会 Q&A	1
2. 採点指針	10
3. 2013 年度内規	11
4. 終わりに	11

1. 平成 24 年度一種審判員研修会、第 13 期国際審判講習会 Q&A

2012 年 9 月に FIG(国際体操連盟)は 2013 年版採点規則の原案を公表し、12 月にスロバキアの首都ブラチスラバ市で第 13 期大陸間国際審判講習会が開催されました。審判委員会男子体操競技審判部では、9 月に公表された原案、大陸間講習の内容をもとに 1 月に大阪と東京にて 1 種審判員研修会を実施しました。また、1 月末には FIG 男子前技術委員長を招聘し国際審判員認定講習会を実施しました。そこで、国内で開催した 3 回の研修・講習会で提示された質問とその回答を情報として通知することとします。

□ 一般条項

Q：D スコアへの質問は「1 分以内に」とあるが、次の選手の演技中でも可能か。

A：採点の間、質問できそうな時にお願いします。
競技進行にご協力ください。

Q：足裏で着地した後、膝をついた場合の減点は。

A：明らかに膝で支えた場合は転倒と同等と考え、-1.00 で対応します。

Q：つり輪や鉄棒で補助者をつけない場合の減点は。

A：減点はありません。

Q：着地の際、指先だけ触れても 1.00 の減点となるか、また手が触れると支えるとの違いは。

A：手に体重のかかり具合と表現したらよいでしょうか、触れただけの減点は、中欠点(-0.30)です。

Q：服装違反の減点はどの種目から減点をするのか。

A：発覚した種目で 1 回のみ決定点から減点します。審判長は、次の種目以降の主審に伝達してください。

Q：演技開始前に手につばをつけるのは減点にならないか。

A：なりません。

Q：器械の高さは追加マットの分を含まないということでしょうか。

A：はい、含みません。

Q：ひねり不足に難度の格下げはしないのか。

A：採点規則 7-4 条 5k)により、 90° を超えてひねりが少ない場合、低い難度で判定します。

Q：高体連の禁止技（宙返り転）はどうなりますか。

A：高等学校適用規則で確認してください。

難度表の●印は、ユース五輪で適用されるジュニア規則で、国内ジュニア大会とは無関係です。つり輪のグチョギーや平行棒のベールは、国内では禁止技の対象外です。

Q：リファレンスジャッジについて詳細に教えてください。

A：リファレンス審判員システムは、競技におけるさらなる採点の公平性を支えるために決定され、E スコアにおける問題発生の場合に備えた自動的かつ短時間で訂正するシステムとして導入されています。E 審判の採点と R 審判の採点に隔たりがあった場合、コンピュータ内で自動的に R 審判の得点が E スコアに反映するようにプログラム化されています。

Q：ゆかで倒立技や柔軟技が入っていない等の種目の演技内容に合致しない演技に対して構成上の減点はないか。

A：減点の対象とはなりません。ゆかでは、色々な動きや捌きで柔軟性やバランス技として対応します。

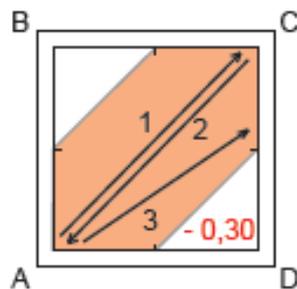
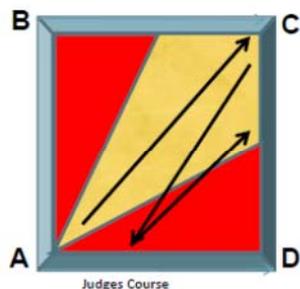
□ ゆ か

Q：四辺の中間点の印は具体的にどんな印をつけるのか。

A：FIG はノーコメントでした。誰からも確認できるような印をつけてください。

Q：講習会時のスライド(左)と採点規則の図(右)が異なっていたが、どちらが正しいか。

A：スライド資料では色のついている箇所が異なっていますが内容に変わりはありません。



Q：3本目の宙返り技の着地でずれて、中間点を越えてしまった場合、同一対角線使用の減点になるのか。

A：着地した地点で判断して下さい。

Q：十字倒立から前転を実施した場合、「転・臥せ」の2回に数えるか。

A：数えません。一瞬でも空中に浮いたような前転は、とび前転と判定し抵触する可能性があります。

Q：倒立から伸膝前転脚前拳支持経過倒立は、他の倒立技（脚上拳やシンピ等）の前転から実施することは可能か。またその際、開脚して倒立になる捌きはどうか。

A：最初の倒立になるまでは限定されていないので、どのような捌きであってもかまいません。閉脚で伸膝前転をして脚を抜いて倒立になる際に開脚した場合は無価値な開脚として中欠点(-0.30)となります。

Q：採点規則 10-2 条 2-5g)演技中最大2つまでの力技には、バランス技、静止技、倒立前転脚前拳支持経過倒立、倒立ひねりは含まれるか。

A：この条項に抵触する技は力倒立に限定します。

Q：シュピンドルから倒立になる技（I-117、I-122、I-124）が認定される条件はなにか。

A：シュピンドルが終了した正面支持から両足入れ、両足抜きで倒立位になれば認定されます。

Q：後方宙返り 7/2 ひねり～前方宙返りひねり、前方宙返り 2 回ひねり～前方宙返りひねりを行った場合、組合せ加点はどうなるか。

A：E+B：組合せ加点+0.10 D+繰り返し（難度不認定）

Q：モランディからの前方宙返りを実施した場合、組合せとなりますか。

A：組合せ加点の対象となります。

Q：前方宙返り～モランディを実施した場合、組合せとなりますか。

A：組合せ加点の対象となる可能性はありそうです。

Q：宙返り～とび正面支持臥は、採点規則 10-3 条のゆか特有の減点の対象になるか。

A：なりません。 難度も認定します。

Q：不認定となる宙返り転に実施減点はあるか。

A：あります。D 審判と E 審判は別の審判です。

Q：宙返り転技を 2 回を超えて実施した場合、減点があるか。

A：採点規則上では、2 回目の宙返り転に対する減点項目はありません。

Q：宙返り～宙返り転技が 3 回目の転、正面支持臥になった場合の減点は、-0.50 と -0.30 で -0.80 の減点となるか。

A：大陸間講習会では-0.50（宙返り転技を他の宙返り技とつなげる）のみで対応していました。

- 例) ①伸身前とび前転
②前方宙返り正面支持臥
③テンポ～かかえ込みトーマス ⇒-0.50

□ あん馬

Q：片足振動で倒立になる技は、下ろし方が異なれば2回使えるか。

A：FIGは正式にコメントはしていませんが、現在のところ、下ろし方(腹側または背中側)が異なっても正交差1/4ひねり一把手上倒立になった場合はリーニン(I-04)と判定し、逆交差1/4ひねり一把手上倒立になった場合はI-22と判断することが妥当と考えます。

Q：I-16 ミクラックの表記とミクラック選手が行った捌きは異なった運動のように思えるが、特に馬端での抜きを行った際の支持～跳躍は交差という技の課題を満たしていない動きに思います。採点ではどのように扱われるのか。



A：ミクラック選手が実施した捌きを忠実に表記しているとは考えにくいと思いますが、I-14(正交差ひねり逆交差入れ)を馬端部から逆馬端部まで移動した技をI-16と判定します。

Q：以前の高校規定のような片足抜きは技としては難度表にないが、行っても減点の対象にならないか。

A：構成上の減点はありませんが、実施減点(片足振動の大きさが無い)には抵触します。

Q：シュテクリA直接背面とび横移動倒立から「ブスナリ」と同様の動きをした場合、格上げで「H」難度までなるか。

A：格上げの原理からいくとG難度を超えますがH難度はありません。

Q：旋回倒立の格上げの原則をもう一度説明してください。

A：基本は今までどおりで、倒立上で「1回ひねり下ろし回し」は2段階の格上げとなります。

- ・旋回倒立で360°ひねって下ろして回した場合、
- ・360°ひねる・・・+1
- ・360°ひねって下ろして回す・・・+2
- ・トータル+3で3段階格上げとなります。

Q：採点練習の映像で「ブスナリ」の次に実施された技の難度は。

A：F 難度です。

馬端部旋回倒立	1 回ひねり	3 部分移動	下ろして旋回
B	+1	+1	+2
C		D	E⇒F

Q：ブスナリ系の技はグループⅡということだが、内容を変えれば4技まで認められるか。

A：ブスナリ系が何を指すかわかりませんが、倒立にあげる際、シュテクリ A と下向き逆移動（逆リヤ）から上げた場合は同一技となり、背面とび横移動倒立や旋回倒立から実施した場合は、別技と判定します。

Q：ブスナリの途中で落下した場合の難度は成立した部分まで認定されるか。

A：難度不認定となります。あん馬において、演技中に倒立をもって完了する技は存在しません。終末技であれば成立した部分まで難度が認定されます。

Q：倒立下りの3部分移動と1回ひねりについて、ひねりはいつ行ってもよいか。

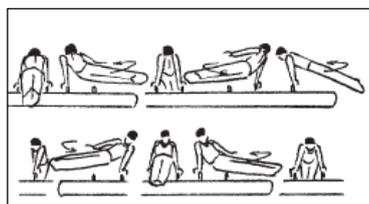
A：移動しながらひねっても、移動する前や後にひねっても難度は認められます。

Q：馬端馬背ロシアンは1080°と720°の両方実施することはできるか。

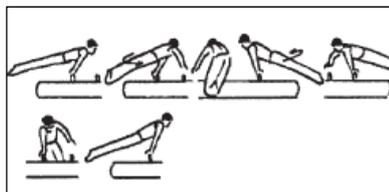
A：実施できます。

Q：いわゆる「フクガ」という技はIV-44かIV-49のどちらの技か。

Q：IV-50は、「フクガ全転向」と呼ばれる技か。



IV-44 下向き転向



IV-50 ロシアン 360° 転向

A：左側は、IV-44 下向き転向でいわゆる「フクガ」で、右側はIV-50 ロシアン 360° 転向で、以前は「フクガ全転向」と表記された技です。一時期、両者とも下向き転向と表記しましたが、区別するために「ロシアン転向」と原文に近い表記に変更しました。

Q：下向き逆移動やスイスドゥーブル、フクガは、ロシアン転向の規制 11-2 条 2) に抵触するか。

A：下向き逆移動やスイスドゥーブル、フクガは抵触しません。

この項目に抵触する技は、ロシアン転向技で採点規則 p86 のIV-49、50、51、52、55、56、57、58、62、63、64、65 です。

Q：馬端部からのシュテクリ B はループとして認定しますか。

A：馬端部横向き支持から 1/4 転向しながら一把握上に縦向き正面支持になり縦向き支持の技に連続されるとループと判定し、一把握上の縦向き正面支持から 1/4 転向し横向き支持になるとシュテクリ B と判定します。



ループ



シュテクリ B

Q：演技の中間技で逆リア倒立からの技を実施し、終末技でも逆リア倒立をできますか？

A：可能です。

Q：終末技の3馬背部分において450°以上の倒立ひねりとあります。説明では1回ひねりで格上げと解説があったが、450°とあるのはなぜか。

A：考え方は今まで通りです。倒立下りは着地する際90°の転向を伴います。そのため、 $360+90=450$ となります。

Q：中学校適用規則で馬端横向き旋回～馬端転向 downward 向き下りを実施した際、馬端1/4転向と downward 向き下りで2技の認定できますか。

A：1技で判定します。1/4転向は難度表にありません。横向き旋回をあん部や馬端部（左右で別）で別技とするなどの措置をとっており、中学校適用規則以外の特例措置を作らないように考えています。

□ つり輪

Q：追加マットの大きさはどうなりますか？

A：大会会場で準備できるものを使ってください。

Q：開始時の肩の半返し懸垂は減点か。

A：ありません。

Q：開脚前拳支持から前にロールしたら、I-07のA難度が認定されるか。

Q：(開脚) 水平支持から前ロール、懸垂後ろ振りはA難度になるか。

A：A難度が認定されるためには支持後ろ振りが必要となります。そのため水平支持や開脚前拳支持から前に回りながら懸垂になってもA難度は認定しません。

Q：「ほん転逆上がり倒立経過」において、腕が完全に揃っていない捌きや倒立位を経過していない場合の扱いはどうするのか。B難度で減点か、A難度の懸垂回転として減点なしか。

A：「ほん転逆上がり倒立経過」でB難度が認定されるためには、腕を揃えて倒立位を経過することが条件となります。E審判は、相応の減点で対応します。

Q：リーニン系の技とは、グループIもグループIIIも合わせて2技という解釈か。

A：その通りに解釈しています。

Q：グチョギーあるいはリーニン系の回数制限でグチョギー背面懸垂（I-33）は同時に2つの制限に抵触するか。

A：英文では、Guczoghy to Li Ning hang と表現されています。おそらく1技で同時に抵触するでしょう。よって、どちらもあと1回しか実施できません。



Q：ヤマワキ（かかえ込み）の途中で支持がみえると難度なしだが、ホンマをかかえ込んでしまった場合（膝がまがってしまった）、認定は。

A：ホンマにかかえ込みで実施は認められず難度不認定となります。

Q：12-2条1-5g構成上の減点で、開脚前挙支持から後ろ振り出しもこれに該当するか。

A：捌き方によっては、無価値な振り下ろしになります。

Q：脚上挙十字懸垂と十字懸垂は持ち込み方が異なれば2回ずつ実施できるか。

A：1種研修会では、可能であると回答しましたが、1月末の国際審判講習会にてFIGに確認したところ、十字懸垂という姿勢は同じであるので3回目から抵触するとの回答を得ました。

そのため、け上がり脚上挙十字懸垂、ホンマ十字懸垂、アザリアンという構成ではアザリアンは、不認定となります。

□ 跳馬

Q：片足が直接ラインの外に着地した場合の減点は。

A：-0.10

□ 平行棒

Q：前振りひねり単棒横向き倒立（Dツイスト）等の技は、単棒上で静止が必要か。

A：静止は要求されていませんが、いつでも止まれるような捌きが求められています。

シャルロやピアスキーの単棒倒立で1秒静止が必要な技は難度表内に（1秒）と表示しています。

Q：後方車輪3/4ひねりや棒下宙返り3/4ひねりから軸手を換えて3/4ヒーリー（マクーツのような捌き）をしたら難度はどうなるか。

A：新技申請をしてください。F難度に相当する可能性はあるでしょう。

Q：国内の平行棒 計時審はどう対応するか。

A：従来どおりでE審判で対応してください。審判人数に余裕があれば配置してください。

Q：平行棒のウォームアップがチームに与えられた場合(50秒×人数)、計時審判のコールはどうするか。

A：6人で5分(300秒)、4人で3分20秒(200秒)ですが、国内対応として終了の30秒前と10秒前にコールをするようにします。

Q：前振り上がり 5/4 ひねり単棒倒立を実施した場合の難度は。

A：新技申請をしてください。F 難度に相当する可能性はあるでしょう。

Q：前方 5/4 宙返り腕支持と屈腕支持と懸垂は同じ種類の技になるか。

A：14-2 条 2-3c)同じ種類の宙返りの技に抵触します。

□ 鉄 棒

Q：モズニクなどのトカチェフひねり片大逆手懸垂で、ひねりが不十分（または後ろ振り倒立にならない）でその後にトカチェフを実施した場合（またはその逆）、トカチェフの繰返しと判定しますか。

A：繰返しになります。

Q：大逆手エンドーはバーを越えずに持ちかえても成立するか。

A：倒立に上がらないで順手に持ち換えて後方車輪に繋がるような実施では不認定となりますが、早めに逆手に持ち換えて前方車輪につながるような捌きは難度を認定します。

Q：意図する方向へ続かないという減点は、アドラー以外の技にも適用か。

Q：アドラーひねりに限らず、技が意図する方向へ繋がらない場合、「技が意図した方向に繋がらない減点」をするのか。技としてうまく繋がった、あるいは意図していたかどうかを見極めるのは困難であると思われる。

Q：エンドーやシュタルダーで戻った場合、-0.50の減点か。

A：意図しない方向への減点は、アドラーひねり(1回ひねり)に限定した項目です。アドラー1回ひねりは背中の方(前方車輪側)へ、アドラーひねりは腹の方(後方車輪側)へ動くことが意図するべき方向と考えます。シュタルダーやエンドーで本来あるべき方向へ連続されない場合、倒立で倒れる(-0.50) + 技術欠点が考えられます。

Q：アドラー(落下)、アドラー、アドラーひねりを実施した場合、15-2 条 2-3-7.のアドラー系は2回までという規制に抵触するか。

A：①アドラー(落下)

②アドラー・・・・・・C 難度

③アドラーひねり・・・・・・D 難度を認定

ただし、①のアドラーが浮腰回転振り出しの形態を示したが 45° を超えて難度が不認定になった場合、②のアドラーは繰返しとなり難度は認められない。さらに③のアドラーひねりも3回目の実施となり不認定 (E 審判：-0.30)。

Q：け上がり倒立ひねり片大逆手の減点は。

A：15-2条-1-3.b)に則り、30°まで減点なし、45°まで-0.10、90°まで-0.30、90°を超える-0.50を適用しますが、技術欠点も伴うと考えられます。

Q：アドラー倒立から1周まわって大逆手エンドーを続ける場合も大逆手車輪のBをとれるか。

A：認定します。

Q：ひねって（片）大逆手の技の角度減点が緩和されたが、リバルコと後方とび車輪3/2で握りの違いで減点が異なるのか。

A：規則上、両逆手と片逆手になる技は15°以内で減点なしが適用されます。運動形態が同じでも握り手によって減点の度合いが異なってしまうでしょう。

Q：ヤマワキ等の手放し技から、け上がりやエンドーは運動方向に続かない減点になるのか。

A：なりません。構成上の減点はありません。

Q：大逆手エンドーの成立はどこからどこまでか。

A：終末局面である倒立位から45°以内であれば難度認定されます。

Q：アドラー1回ひねり片逆手と両逆手の判定方法はあるか。

A：手首、肘、捌き方などよく見てください。

Q：ポローニンとヤマワキの認定基準はどこか。

A：手を放してからの上昇の仕方、腰がまがり具合を総合して判断の基準にしています。

Q：中学校適用において、後ろ振り上がり倒立～後方浮支持回転を行った場合、構成上の減点になるか。

A：減点の対象としていません。

2. 2013年度採点指針

□ 全体として

- 安定した演技実施を基盤に高められたDスコアを有する演技
- 美しく、力強い安定した演技実施
- 準備局面を有し意識的に止めようとした終末技の着地

□ ゆ か

- 雄大なタンブリングや正確なひねり技での安定した着地
- 静止技や単純な動き、ポーズでの指先や足先まで意識された美しい体線を示す演技

□ あん馬

- 安定感があり、終末技までスピード感を示し腰高で十分に体を伸ばした旋回
- 倒立位を経過する技でスムーズな振動技術

□ つり輪

- 静止技での正確な姿勢と時間
- 倒立や演技全体としての力強さ

□ 跳 馬

- 雄大な跳越
- 準備局面を示した着地

□ 平行棒

- 倒立で握り手や肩を動かさない安定した実施
- 倒立位を経過する振動技での角度減点のない実施

□ 鉄 棒

- 雄大な空中局面を示した手放し技や終末技で安定した実施
- 倒立位を経過する技、ひねりを伴う振動技での角度減点の少ない実施

3. 2013 年度内規

以下に示す競技会以外の大会で適用する。

- ・ 第 67 回全日本体操競技選手権大会（個人総合選手権、種目別選手権、団体選手権）
- ・ 第 52 回 NHK 杯体操
- ・ 2013 全日本ジュニア体操競技選手権大会（1 部）
- ・ 第 67 回全日本学生体操競技選手権大会
- ・ 全日本社会人体操競技選手権大会（1 部）

1) 終末技グループの要求難度について

- ・ A 難度の終末技 +0.10
- ・ B 難度の終末技 +0.20

2) 下記の宙返り下りは A 難度とする

- ・ つり輪、平行棒、鉄棒の前方・後方（かかえ込み・屈身・伸身）宙返り下り

4. 終わりに

審判委員会
男子体操競技審判部
部長 後藤 洋一

私たち日本体操界は、「美しい体操」を信条に演技を構築してきました。アテネオリンピックでの団体金メダル以降、いっそう美しさに磨きをかける努力を積み重ねてきました。その結果、日本選手の洗練された美しい体操は各国際大会で評価され、世界中の体操人の目標ともなりました。しかしながら、2010 年、2011 年、2012 年の世界選手権大会、オリンピック大会においては惜しくも中国の後塵を拝する結果となりました。このことを真摯に受け止めなければなりません。大事な場面での落下や中断といった過失があったことを忘れてはなりません。

私たちの目標は、2016 年リオデジャネイロオリンピックでの団体優勝、個人総合優勝および複数のメダル、種目別でのメダル獲得であります。私たちが追い求める「美しい体操」だけでは評価はされても勝つことはできません。「失敗しない力強く安定した演技」、「着地を止められる先取りのある終末技」などがこれからの課題になると考えられます。当然のことながら選手とコーチには、D スコアを高めること、実施減点を少なくして高い E スコアを獲得することが課せられるでしょう。

そして、6-3-3 制や 5-3-3 制に対応する戦略を如何に練り上げていくかも課題となるでしょう。個人総合を目標とした 6 種目強化と並行し 3 ないし 4 種目で団体決勝に貢献し種目別決勝で活躍できる選手を発掘し育成、起用を目指さなければなりません。さらに課題となる団体決勝での大過失を無くすことを達成できたとすればおのずと結果はついてくると考えます。

リオデジャネイロに向かって素晴らしいスタートが切れることを祈念して情報 20 号を通達いたします。